

“この人に学ぶ”

第3回 二宮尊徳



全管連 技術参与 小泉智和

二宮尊徳そんとく（正しくは、たかのり）と言うより二宮金次郎（自筆は金治郎）の方が知られているでしょうか。幼い金次郎が薪を背負い、読書している像が有名ですが、尊徳像は、終戦直後の一円札に描かれています。

尊徳は、少年期に両親と死別、以後、貧しい暮らしの中で勤労に励み、独学で豊かな見識を育み、全国各地の困窮した600余の農村の救済に手腕を発揮しました。

ところで、戦前全国の小学校にあった金次郎像ですが、明治37年以降、国定教科書に修身の象徴として二宮金次郎が取り上げられたのを機に石材業者が作るようになりました。最古のものは大正13年に前芝村立高等尋常小学校（愛知県）に建立されたものとされています。立像は1mの高さで子供たちに1mの長さを実感させるために一役買いました。

昭和に入り、銅像も高岡市の銅器製造業者によって多く製造されましたが、その銅像は、戦時の金属供出令で出征兵士よろしくハチマキたすきかけで供出されてしまいました。

石像は多く残っていましたが、戦後の教育で修身がなくなったことや学校の統廃合、石の劣化などにより、今日ではあまり見かけるのが少なくなってしまいました。



座って読書する金次郎像（Yahoo画像）

それでも、修身の復活の話もあり、金次郎像の復活も見られるようになっていきます。

ただ、今日では、薪を背負うことが分からないことや歩きながら本を読むのは交通安全上望ましくないとして、今一つ復活の妨げとなっています。最近では座って本を読む金次郎像が主流となっています。

○二宮尊徳の名言

尊徳は、農政家であると共に思想家でもあり、多くの名言を残しています。そのいくつかを紹介しましょう。

- ・積小為大：小を積んで大を為す（塵も積もれば山となる）
- ・誠実にして、初めて禍を福に変えることができる。熟策は役に立たない
- ・貧富の違ひは、分度(分に応じた生活)を守るか失うかによる
- ・誠実とは私信を捨てること：自分の利益だけを求める人に、人は集まらない
- ・心田を耕す：人の心の荒廃、心田を耕すことですべてのものが豊かになる
- ・世の中は、知恵があっても学があっても、至誠と実行がなければ、事は成らない
- ・たらいの水：水を自分の方に引き寄せようとするとうこうへ逃げてしまうけれども相手にあげようと押しやれば自分の方に戻ってくる だから人に譲らなければいけない

○二宮尊徳（金次郎）の生涯



二宮尊徳像（日本銀行券 壹円）

二宮尊徳は天明7年（1787）、相模国かやま栢山村（現小田原市栢山）で、比較的豊かな百姓二宮利右エ門の長男として生まれました。しかし、寛政の暴風雨で家は流され、田畑も流され砂礫化してしまい窮乏します。追い打ちをかけるように両親が亡くなり、親せきの家に預けられ、大変な苦勞を続けます。そんな中でも薪を背負い、読書を続けました。

親戚の家を転々としませんが、20歳の

ころには生家の再興に取り組むとともに小田原に出て武家奉公人になります。小田原藩家老の服部家の財政立て直しに成功すると藩内で名が知られるようになりました。

文政4年（1821）34歳の時には、藩主大久保忠真から、大久保家の分家（下野国桜町）の再興救済を命ぜられました。

後半生は幕臣にもなり、尊徳が主導した「報徳仕法」（総合的復興事業）で、藩や旗本知行所・村などを単位として、財政再建に取り組みました。その数600ヶ村にも及んだと言います。主なところでは、桜町領、烏山藩、矢田部藩、小田原藩、真岡代官所、相馬中村藩、日光神領、下館藩、青木村、片岡村、大生郷村などがあげられます。

晩年は病を押して職務に従事し、安政3年（1856）、下野国今市村（現日光市今市）の仕法先で没しました、享年70でした。

墓は、文京区本駒込3丁目の吉祥寺にあります。

○現代に通じる尊徳の教え

農村改革に当たって、尊徳は、農村の荒廃は、人の荒廃からきているとし、いくら成果の上がる手法を伝えても、それに取り組み継続する人々の心が荒んでいれば取り組み自体が役に立たない。その人々の荒廃は、誠実さの欠如にあるとしています。

尊徳は、「誠実にして、初めて禍を福に変えることができる。術策は役に立たない」と説きます。そして、「遠きを図る者は富、近くを図る者は貧す」と述べます。

今日的に置き換えるなら、直ぐに成果

の出る物事ばかりを考え、長期的な投資（研究開発や人材育成など）を怠る企業は、将来性はないと言っているのです。

こうした「道徳と経済の調和」や「困窮する農民の救済」に対する思想は、報徳思想として、明治維新後の黎明期に日本全国へ広がりました。

特に遠州地方での報徳活動は盛んで、掛川市は全国の報徳運動の中心となり、明治8年（1875）には今日の公益社団法人「大日本報徳社」が設立されました。

人間の欲を認めながらも、周りと巧みに調和させ、心もお金も豊かに育もうという倫理思想は、渋沢栄一、安田善次郎、豊田佐吉、松下幸之助、土光敏夫をはじめとする多くの経済人たちに多大な影響を与えました。

行きつくところ、彼は、「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」と述べているのです。

なお、野球、ラグビー、陸上（駅伝）、相撲（大関貴景勝）などで有名な報徳学園（西宮市）は、二宮尊徳の教えを基本として、明治44年に設立された学校です。

○二宮尊徳ゆかりの地巡り

二宮尊徳ゆかりの地は、関東、静岡、山梨一円、神社に至っては全国に及んでいます。

尊徳を祀る二宮神社*については、日光市、真岡市、小田原市、相模原市などが有名ですが、ここでは尊徳が生まれ育った小田原の報徳二宮神社をご案内しましょう。

小田原城二の丸の一角に、明治27年、尊徳の教えを慕う6カ国（伊豆、三河、遠江、駿河、甲斐、相模）の報徳社の総

意により創建されました。拝殿の礎石は、小田原城内にあった米蔵（天保の大飢饉の時、藩主の命を受け、尊徳が蔵を開き農民を救済、領内から1名の餓死者も出さなかった）の礎石が用いられています。

神社を参拝したら徳川家譜代の小田原11万石のお城を見学しましょう。

*社格に由来する二宮神社は、全国に存在する一宮、二宮、三宮と称される神社のうちの「二宮」を指します。

神奈川県二宮町は、相模国「二宮神社」に由来する町です。



報徳二宮神社（小田原城内）

管工事組合の皆さん、その家族の方が東京に来られたら、小泉がご案内します。

申し込み：全管連事務局 所要1～2時間 無料（交通費はご負担ください）

*参考資料

「二宮尊徳」 大藤 修 著

吉川弘文館

「二宮尊徳」 小林 惟司 著

ミネルヴァ書房

次号では、吉田松陰をご紹介します。